



音楽史研究

——ピアノ音楽を中心とした——

バロック時代にはいるまで その1

辻 莊一公開講座より

クリッタン時代の音楽は別としまして、日本に西洋の音楽がはいつてから何年位になると思われますか。まだ100年になるかならないかなのですね。

皆さん方はピアノをやっておられる方が大部分なのでしょうが、こんなにピアノが弾かれるようになったのはいつ頃からだと思いますか。せいぜい20年位のことなです。その間の日本のピアノ界の発展はすざましいものがありますね。国際音楽コンクールで、1位や2位をとる方々が、大勢でてきました。

が、果して将来、ギーゼキングやバックハウスのような大家になり得る人がいるかどうか、と言うことになりますと非常におぼつかないんですね。

それは、何故でしょうか。

それは、大変失礼な言い方をさせていただきますと、あなた方が——ピアノ教師が——履歴書を見ないで、人を雇ったからなのです。すなわち、1000年もの長き間に培われて来た西洋の音楽の、こととなり行きを知らず、ただ指先きだけでピアノを弾いて来たからなのです。私は今でも音楽学校などで教えておりますが、口をすっぱくして学生達にっておりますことは、「ピアノ弾きあるいはバイオリン弾き・歌うたいの音楽知らずになるな」と言うことです。

芸術とかさらに大きく、文化などにおいては、この歴史を知らず、ことに当っては大変なことになります。

ここに集まっておられる方々は、学生時代に音楽史については学ばれて来たと思いますが、口頃レッスンなどに追われて、お忘れになっている点もあろうかと思いません。

そこで、古い音楽はどうであったか、バッハに至るまでにはいろいろな音楽がありまして、それがどう言う道筋を辿ってバッハの音楽が生れたか、例えば、イタリア協奏曲が作られた動機は何なのか、また今の楽譜とバッハの時代の楽器との違い、それを現代どのように演奏すれば、バッハの精神が生きるかといったことなど、音楽履歴書を御一緒に研究して行きたいと思えます。

ここにおられる福田先生の御要請によりまして、こんな白髪頭を皆さんにお見せすることになったわけですが私は、16世紀から18世紀にかけての音楽史を3回にわたって講義することになっております。

さて、バロック音楽はいつからいつまでを指すかと申しますと、わからないのです。学者によっていろんなことをと言いますので、今日はそれについては論じないことに致します。

バロック時代はどんな時代であったかについては、この小史(辻莊一著 西洋音楽小史 カワイ楽譜刊)をお読み頂きたいと思えます。余談になりますが、何故この本を作ったかと申しますと、音楽学校や一般大学の教養学科として音楽史の話をします時、私はなるべく多くのレコードを聞かせるようにしておりますので話をしている暇がありません、そこでその折プリントを生徒たちにわたしておりましたが、プリントよりも書物にした方が安いのです。私の講義の下書きのようなもので、さぞかし読みにくいかと思えますが、できるだけ、かいつまんで書きましたのでお読みいただけたらと思えます。長い文を書くことは時間さえあれば、割合に簡単なことですが、ものをちぢめて書くということは苦しいことです。

では何故バロック時代のことから話すか、と申しますと、今世の中にあります音楽のいろいろな形、今演奏されているいろいろな音楽の形というものは、殆んどバロック時代にできたものなのです。

例えば、ピアノという楽器もバロック時代の終り頃にできたものでし、ソナタといい、いろいろな形の音楽がバロック時代に生れ、バッハに至って大きくまとめられハイドンやモーツァルトへ引き継ぎつかれていく、音楽の歴史の中でも一番大切な時代なのです。

そこで、音楽史を勉強される方々は、われもわれもとバロック時代の音楽を研究される、これは日本ばかりではなく、外国でもそうで、バロック音楽だけを研究する学術雑誌があるほどです。それだけ重要視されているのです。

バロック音楽の中で一番演奏されるのは、何と言ってもバッハの音楽でしょう。スカルラッチェの音楽などになりますと、大部モーツァルトの音楽などに近づいています。

バッハの音楽には、いろいろな分野の音楽があるわけですが、今回は鍵盤楽器のために作った曲だけを対照にして考えてみたいと思います。

では、バッハは鍵盤楽器のためにどんな曲を作ったかと申しますと、まず、プレリュード（前奏曲）がありますね、それからフーガ、フーガの前にトッカータがついていることもありますし、ファンタジアと言うものがついていることもあります。

それから、フランス組曲とか、イギリス組曲といった組曲があり、ゴールドベルグ変奏曲に見られるように変奏曲があります。

それから数は少ないですが、バッハのお兄さんがノールウェーに行く時の別れに際して作った曲、すなわち、ある目的をもって作った標題音楽があります。その他いろいろな楽曲があるわけですが、例えば、バルティータ（変奏曲の一種）など、——その一つ一つの曲の成り立ちを、レコードを聞きながら研究してみましょう。

プレリュード Prelude 前奏曲

歴史的に考えて一番古い音楽の形は、このプレリュードなのです。それは、いつごろからあったかわからない位古いのです。

といいますと、ピアノの先祖である、クラビコードとかチェンバロが生れる前には、オルガンがありましたがこのオルガンのために作られたプレリュードというものは、13、14世紀頃からあったのに相違ないのです。それは、教会にあったオルガンは、聖歌隊がうたい出すのにどの高さからうたい始めたらよいかわかりませんでしよそれで、この聖歌隊がうたい始める前に、ごく簡単な曲

を弾いたのです。これが^{プレリュード}前奏曲の始まりなのです。

それから後に器楽曲が発達してきて、——この器楽曲についてはあとでくわしくお話しますが——例えば、チェンバロを弾くならば、演奏する前にチェンバロの前に腰掛けるとちょっと、ウォーミングアップしたくなりますね。指ならしと言うか。これが、プレリュードでもともと独立した楽曲なのです。その場その場で作って弾いたものなのです。

Prelude という字を見ましても、Pr とは前と言うこと lude は、ラテン語の Ludus 遊びと言う言葉から来ているものなのです。

このように、あることの前に演奏すると言うことは、日本の雅楽にも古くからありました。

今日は雅楽の話を致しませんが、昔の話ですが、相当音楽の勉強された方が、ボンに行かれてベートーベンの生家に行かれた時、ベートーベンの使ったピアノの上で「ここでプレリュードを弾くな」と書いてあったので、ここでまさかショパンのプレリュードを弾くわけでもあるまいに、と思われたと言うのですが、このプレリュードと言うのは、かってにガラガラ弾くと言う意味なんですね。

プレリュードの発祥はこういうことからなのです。次回はピアノの歴史のお話より掲載する予定です。

音楽史研究

古典派	ハイドン	9/17(金)午前10:00	武川寛海
	モーツァルト	10/22(金) //	
	ベートーベン	11/26(金) //	山根銀二
	ベートーベン	12/10(金) //	
場 所	渋谷カワイサロン		
皆さんのお越しをお待ち申し上げます。			

ピアノ専門誌

musicanova
ムジカノヴァ

7・8月合併号

¥320 (千円)



【特集】20世紀の演奏様式 岩井宏之 千歳八郎
中村洪介 矢島繁良

■新連載■ベートーヴェンのソナタ研究① 山根銀二

〈グラビア〉日本のピアニスト⑧ 江戸京子

- ピアニストに聞く⑤ 田村 宏 聞き手 野村光一
- 世界の大ピアニスト⑥ スヴァトスレフ・リヒテル 藁科雅美
- ロマン派の和声② ショパンの和声 小林秀雄
- バッハ「2声および3声のインヴェンション」の分析と解説⑧ 長与恵美子

東京音楽アカデミー 東京都千代田区神田小川町3-14 万水ビル Tel.03-292-7256-9 振替・東京131476